

【目的】 味噌は、地域の嗜好に合った非常に地域性の高い食品である。しかし、食の多様化の進展につれて消費量もやや減少傾向にある。このような中で味噌汁や味噌料理の評価に対し男女、出身地域、年齢、生活様式の違いがどの様に影響しているかを知る目的で調査研究を行った。

【方法】 平成元年10月21日、22日の両日本学大学祭参加者の内 430名を対象にアンケート調査により実施した。回答者の内訳は女性77%,男性23%,東海地域77%,他地域出身者23%,年齢構成は若年層(23才以下)52%,中間層(24~39才)21%,高年層(40才以上)27%で、生活様式は自宅66%,下宿27%,寮5%である。

【結果】 (1) 味噌汁は、豆味噌が最も好まれ(全体の57.4%),男女($p < 0.01$)と、出身地で大きな差異($p < 0.001$)があった。

(2) 味噌料理に対する好みは年齢層($p < 0.001$)並びに出身地($p < 0.001$)で大きな違いがあり、豆味噌を好む地域では好む味噌料理の種類が多く、豆味噌の調理性に優れていることが考察出来た。

(3) 味噌汁は大多数の人(女96%,男64%)が、特に下宿者97%が調理出来ると答えた。調理出来る事と味噌汁回数と男性では有意差はなく、女性では有意に差($p < 0.001$)があった。

(4) 味噌汁の健康性の認識度は高く(91%),特に男性の高年層程($p < 0.05$)高かった。ところが、健康性の認識度に対し、味噌汁を調理出来るか否かは男性では有意差はなかったが、女性では明確に差($p < 0.001$)があった。